

第2回 豊川市子ども・子育て会議録

平成26年3月12日(水)
午後1時30分から4時15分
豊川市役所 本23会議室

1 あいさつ

白垣会長によるあいさつ

(略)

2 議 事

(1) 子育てに関するアンケート調査の結果について

事務局が「資料1」を基に概要説明

(略)

【主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・幼稚園や保育所などを利用していない理由として、「空きがない」と回答しているのは、豊川市が待機児童をゼロとしている中、実態は不足しているように感じる。
- ・「空きがない」とは、希望する園が空いていないということなのか。
(事務局) 実態は、希望以外では案内できる。この回答では、どこもだめであったかどうかは分からない。
- ・(幼稚園や保育所などを利用していない理由として、)「利用する必要がない」という回答と「子どもがまだ小さいため」の回答者は重複しているのでしょうか。クロス集計がされていないため、まだわからないところと思われるが、そうであれば、いずれ、年齢が上がるにつれ「利用する必要がない」の回答者は減ると思う。
(事務局) 利用していない方の細かいデータとしては、「空きがない」と回答している年齢構成は、0から2歳が多くを占めている。「必要がない」、「まだ小さいため」では、すべてが3歳以下であった。
- ・現在利用している幼稚園や保育所の一覧があるが、市外の(幼稚園・保育所)施設を利用している方の理由はわかるか。
(事務局) 他市の利用の理由の資料はないが、会社、実家が近いというものが合致するのではと思われる。
- ・駐車場の近い遠いなどという条件もニーズとして取り入れ、計画に盛り込めるものなのか。

(事務局) すべての要素を満たすことは難しい。数・量からみて、物理的な問題解消を優先することを考える。

- ・豊川市内に無い教育・保育サービスは何か。
(事務局) 認定こども園、家庭的保育、市役所が認証・認定した保育施設、居宅訪問型保育が現時点ではない。
- ・子育てに日常的に関わっている方の回答では、父親の数値が低い。見方を変えると、夫が家事、育児に触れていないことが表れており、日本の場合の潜在的な意識がある。責任のある立場に立ちたくない女性が多く、仕事では、パート・アルバイトのニーズが高い。このような状況をどのようにフォローしていくか考えていく必要があると思う。
- ・子育て支援の更なる充実へ、子育てを親に任せるため、個々の家庭状況に応じた支援など、このアンケートの活用方法が大事である。
- ・子どもが病気の時の施設利用に関しては、自分が子なら、親に看てもらいたいと思う。これに対し実態では、親は誰かに看てもらいたいというニーズがあるからそれに応える使い方、これを基に子どもの声を聞いて親の子育てを考える使い方など活用方法がポイントと思う。
- ・児童クラブについて、親は小学6年まで使いたいという声があるが、子どもは、小学6年まで過ごしたいと思っているのか疑問。慎重に考えるべき。
- ・ニーズをどのように形にしていくのが、会議の担うところである。
- ・子どもがどう思っているのかのアンケートも必要ではないかとも思う。子育ては親がするものではあるが、親だけで考えてしまってもいいのか疑問に思った。
- ・計画策定の主旨が、育児の肩代わりするものではないというところを主軸として取り組むべきと思う。
- ・将来、労働人口が減り、女性の働く必要がでるが、その際に、長時間ではなく一時保育などの預かりの多様化と女性が働くことが難しいことのないよう、雇い側（企業側）の対応も必要。
- ・会社内に託児所があり、子どもと一緒に帰れる企業もある。一方、子どもが病気でも休めない、休みにくい文化が日本にある。この状況を国がどのように解決していくのか、調整していくのか、声をあげていけないと思う。
- ・このニーズ調査の次に広く住民の意見を取り込む検討をしていかななくてはいけない。
- ・他市の同じ項目のアンケート結果と比べ、豊川市の特徴がわかったら、また教えてほしい。

(2) 事業計画策定にあたって (骨子)

- ①教育・保育提供区域の設定について
- ②教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みについて
事務局が「資料2」、「資料3」、「資料4」を基に概要説明
(略)

【主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・豊川市の現状では、ニーズも含めて待機児童がいないと読み取ってよいのか。
(事務局) 現状で待機児童がいないのは、希望するところではない保育所を含めたものであり、ニーズを含めて、現状と比較をこれからしていく。
- ・ニーズと現状が分からないと区域設定はできないのでは。
状況も踏まえ、利用希望も含めて検討すべきものであるので、量の見込みを把握し、区域を設定すべきである。
(事務局) 目安で定めたもので、区域を固定し、ここだけで判断するという考えはない。先に区域を決めてしまうことが、難しいというのであれば、ニーズを把握したうえで、最終的に検討していく方向でよい。利用希望どおり入所できるように計画をする。
- ・地域型保育給付の部分がなく、検討材料がないところで、どのように考えているのか。今、実態がないので、今後整備するなどの検討をしていけばよいのか。
(事務局) 施設型給付を優先し、それでまかなえれば、地域型給付を含めて、それ以上の提供を行う必要はないと考える。すべての事業を行なわないといけないというわけではない。
- ・区割りは、区域ごとの資料により判断すべきであり、区域割りありきでは、会議する意義がない。詳細な資料が必要。
(事務局) 今回、区割りに関しては、事務局から提案をしたということで捉えてほしい。
- ・保育所入所の要件は、仕事のことのみ記載だが、もっと他にも要件はある。人数が少なくても保育が必要な数を汲み取ってほしい。
(事務局) 実際の運用で対応を考えていく。
- ・学校区ごとのブロック割は分かりやすいと思う。

(3) その他

【主な委員の質疑・意見及び事務局回答・説明】

- ・国の経済的な動向が分かれば、なるべく早く教えてほしい。
（事務局）過度の負担にならないように情報提供に努めたい。

【事務局より】

次回日程について、会長と事務局の相談の上、5月以降に開催予定。